

平成23年2月25日
独立行政法人森林総合研究所
林木育種センター東北育種場

松くい虫に強いアカマツを新たに3品種開発しました ー 東北地方の美しい松林の再生を目指してー

1 概要

独立行政法人森林総合研究所林木育種センター東北育種場（以下「東北育種場」という）では、東北地方で深刻な問題となっている松枯れ被害から美しい松林を守るための方法の一つとして、平成4年度から関係各県と連携して、松くい虫に強いアカマツやクロマツ品種の開発に取り組んできました。

平成22年度は、岩手県及び宮城県と連携してマツ材線虫病（松くい虫）に強いアカマツ（マツノザイセンチュウ抵抗性アカマツ）3品種を新たに開発しました。

これによって、東北地方で開発されたマツノザイセンチュウ抵抗性品種は、アカマツで46品種、クロマツで14品種となりました。

2 開発品種の特徴と開発までの経緯

1) 開発品種の特徴（品種名及び選抜地）

樹種	選抜地	品 種 名
アカマツ	岩手県	マツノザイセンチュウ抵抗性 岩手（藤沢）アカマツ 34号
	宮城県	マツノザイセンチュウ抵抗性 宮城（大郷）アカマツ 193号
		マツノザイセンチュウ抵抗性 宮城（山元）アカマツ 208号

2) 開発までの経緯

①抵抗性候補木の選抜

松枯れの被害を受けているマツ林から、健全で成長の良い個体を抵抗性候補木として選びました。

②人工接種による検定

抵抗性候補木から枝を採取してつぎ木増殖した苗木に、マツノザイセンチュウを人工的に接種し、生存率と健全率から抵抗性を判定し、基準を越えたものを合格木としました。

③優良品種としての評価

平成23年1月19日の独立行政法人森林総合研究所林木育種センター優良品種評価委員会でマツノザイセンチュウ抵抗性について評価しました。

平成23年2月8日に独立行政法人森林総合研究所林木育種センターがマツノザイセンチュウ抵抗性品種として認定しました。

3 今後の活用

1) これまでの成果

- ・太平洋側のクロマツ 平成 22 年 11 月 東北地方で初めて抵抗性品種の種子を採取
- ・アカマツ 岩手県、新潟県で既に抵抗性の苗木が供給されている

2) 今後の取組

- ・日本海側でクロマツの抵抗性品種の開発を進める

(用語解説)

マツノザイセンチュウ

：マツ枯れの原因となる体長 1 mm 程の線虫で、マツノマダラカミキリ成虫によってマツへ媒介されます。マツノマダラカミキリがマツを食害した時にマツの樹体内へ侵入して繁殖（感染）し、感染したマツはおよそ 1 ヶ月以降に針葉の赤褐色化が始まって枯れてしまいます。

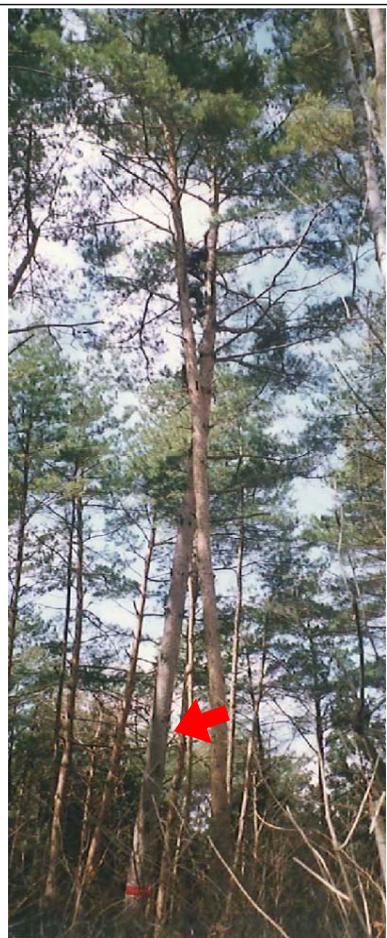
生存率：調査本数のうち、健全な苗と部分的に被害を受けている苗の占める割合。

健全率：調査本数のうち、健全な苗の占める割合。

採種園：苗木の生産に必要な種子を採取するために設けられた樹木園。

問い合わせ先	森林総合研究所 林木育種センター東北育種場
	担当：育種課 星、織 部
	電話：019-688-4518

写真 マツノザイセンチュウ抵抗性アカマツ 3品種



岩手アカマツ (藤沢)
34号



宮城アカマツ (大郷)
193号



宮城アカマツ (山元)
208号

(参考資料)

マツノザイセンチュウ抵抗性育種の進め方

